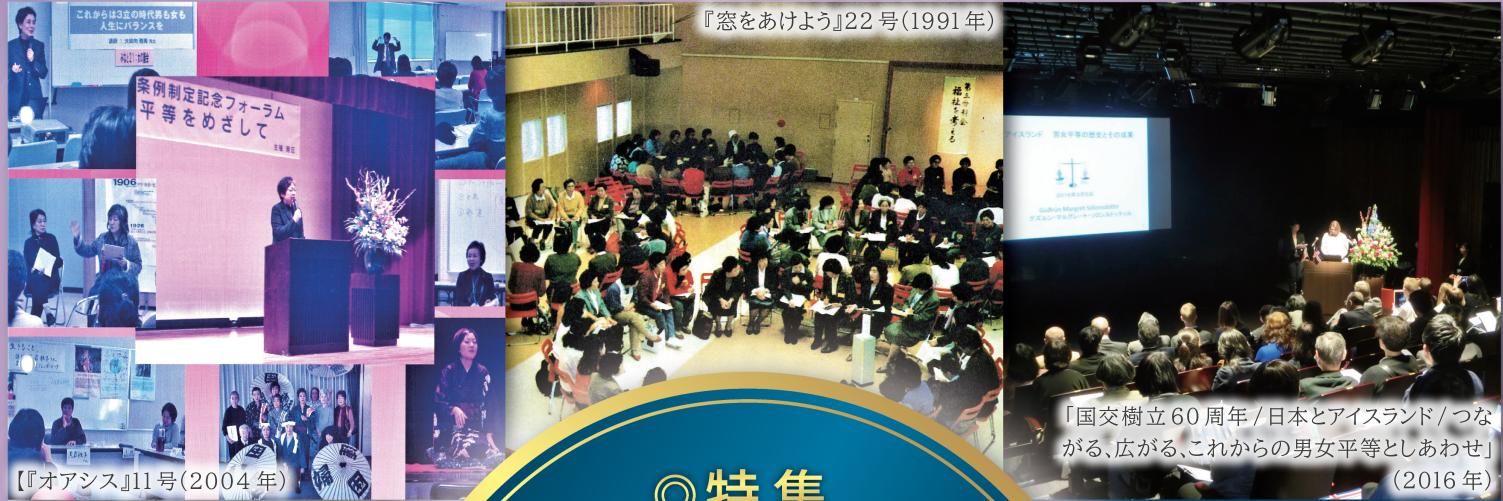


区民と創る港区の男女平等参画のための情報誌

vol. 65

INDEX

- | | |
|-----------------|-----|
| 上野 千鶴子 さんインタビュー | ② ③ |
| 樋口 恵子 さんインタビュー | ④ |
| 柘植 あづみ さんインタビュー | ⑤ |
| 平賀 淑子 さんインタビュー | ⑥ |
| 活動団体からのメッセージ | ⑦-⑧ |



◎特集

Libra 40th Anniversary

リーブラ40周年記念



港区立男女平等参画センター

リーブラ

Libra 40th Anniversary

リーブラ40周年記念

港区立男女平等参画センター(リーブラ)は、2020年4月8日に設立40周年を迎えました。6月のフェスタinリーブラに予定していた40周年記念行事は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、延期となりましたが、今号では、これまで当施設にかかわってくださった講師の寄稿をはじめとして、リーブラを長年利用してくださっている区民のみなさま、そして職員の思い出を通して、これまでのリーブラを振り返ります。

上野 千鶴子 さん

東京大学名誉教授・
認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長



バックラッシュと闘って

東京都には23区あるが、各区は、都からそれぞれの独自性と独立性を保っている。わけても港区と、わたしのご縁はとくべつなものだった。

港区には計3回、出講している。最初のご縁は2007年3月10日開催のリーブラとリーブラサポートーターズクラブの共同事業、「上野千鶴子のあ

リーブラの歴史

- 1980年 ▶港区立婦人会館オープン。
- 1995年 ▶施設名を「女性センター」に改称し、リニューアルオープン。▶愛称「リーブラ」(てんびん座の意)に決定。
- 2002年 ▶施設名を「男女平等参画センター」に改称。
- 2004年 ▶港区男女平等参画条例公布・施行。「男女平等参画センター」は区民や団体が地域で男女平等参画を進める活動の拠点施設として位置づけられた。
- 2014年 ▶男女平等参画センターの設置目的が「女性の地位の向上に寄与するため」から「男女平等参画社会の実現に寄与するため」に改正。▶「みなとパーク芝浦」に移転、業務開始。
- 2015年 ▶マスコット・キャラクター「りぶら」に決定。
- 2020年 ▶婦人会館オープンから40周年を迎えた。

あいえばこういう「男女共同参画を斬る」と題する講演会だった。

その前年、東京都による講師妨害事件、いわゆる国分寺市事件が起きたことを説明しておかなければならぬ。都下国分寺市が東京都との共催事業で人権講座を実施、その講師候補に上野をノミネートしたところ、都の教育委員会から横やりが入った、という事件である。理由は「ジェンダーフリーに触れるかもしれない」から。講座は人権がテーマで、ジェンダーではないのに、しかもまだ起きていないのに、推測だけで事前に排除するという暴挙だった。このとき、都庁に講師選定委員会というものがあることも判明した。

ちなみに上野と東京都との関係は、決して悪くなかった、1999年に石原慎太郎都知事が誕生するまでは。それ以前は東京都男女共同参画センター、ウィメンズ・プラザの研修事業に毎年講師として招かれていたし、非常勤ながら仕事熱心な職員との関係もよかつた。石原都政が最初にやったことのひとつが、ウィメンズ・プラザを運営する東京都女性財団の廃止命令。理事会は抵抗したが、予算ゼロの兵糧攻めにあって、二年間で解散の憂き目をみた。それから矢継ぎ早にジェンダーへのバッシングが始まった。2003年には七生養護学校の性教育介入事件、2004年には都教委の「ジェンダー・フリー不使用」通達。上野の講師候補からの排除はこの流れのもとで起きた。

このときの国分寺市民の動きがすばらしかった。黙って講師をすげかえることもできたのに、情報を公開して「市民の学習権を奪う」ものとして、都に抗議してくれたのだ。

上野は公開質問状を送り、ジェンダー関連の研究者やアクティビストたちが抗議の署名運動をやって、東京都に届けた。この講演会はその一年後に実現にこぎつけた。

それ以前にすでに、千代田区で区長の介入による松井やより講演会のドタキャン、台東区での辛淑玉講演会中止などが起きており、上野も「要注意人物」だった。そんななかで、港区からいただいた講演依頼は、どんなにうれしかったか。都知事が替わっても港区の自治自立は損なわれない、という気概を感じたからだ。

その前年2006年3月25日に、リーブラで開催された「ジェンダー概念」シンポジウム（「ジェンダー概念」シンポジウム実行委員会主催、イメージ&ジェンダー研究会・日本女性学会共催）は、国分寺市事件をきっかけに企画されたものだった。その会場に、上野はこんなメッセージを送っていた。

「東京都のみなさんへ　上野の講演を聞いてみませんか？　都の主催または共催の事業に上野を講師に呼んでください。テーマは「男女平等社会をつくる」。企画が実っても、実らなくても、経過をすべて情報公開しましょう。」

お声がかかればどこへでも行くつもりだったし、妨害が入ればすべて情報公開する覚悟だった。それに港区の区民は、応えてくださったのだ。

講演会は満員の盛況、会場は熱気に溢っていた。その講演の動画記録を今回担当者の方が送ってくださいました。歴史的証言と言ってもよい。公開してもよいと思うがどうだろうか。あのときのことを思い返すと、熱い思いがこみあげる。

その後、2010年6月18日の男女共同参画週間記念フォーラム2010には「男女共同参画」はどこへ行く？で講演。2017年2月22日にはアラフォーシングル女性の生き方講座に出講。この少人数のワークショップはおもしろかった。「おひとりさま」であることに不安を感じているもう若くない女性たちが、自分の親の介護と自分自身の老後の予測におしつぶされそうになっているのを、ときほぐしもみほぐす楽しいやりとりを、今でも記憶している。

その後都知事は入れ替わり、女性都知事も登場したが、男女共同参画政策が進展しているようには思えない。行革の嵐とジェンダー・バッシングのもとで東京都は女性財団廃止、大阪府はドーンセンター売却をからくも阻止、大阪市と名古屋市は男女共同参画センターを統廃合…「女はじゅうぶん強くなったから、女性センターはもういらない」という声も聞くが、ジェンダーギャップ指数世界ランキング121位の現状でそう言うのは、まだまだ早い。センターを守るのはユーザーの市民しかいない。

リーブラもそういう区民たちのサポートによって守つてこられたのだし、これからも守られていくだろう。

樋口 恵子 さん

■ 評論家 高齢社会をよくする女性の会理事長



子育てと男女の自立

リーブラ40周年、心よりお祝い申し上げます。私は今から37年前の1983年2月26日、港区立婦人会館（現港区立男女平等参画センター・リーブラ）で行われた講演会に講師としてお招きを受けました。タイトルは「自立する女の子、男の子の育て方」でした。その要旨は、港区婦人ニュース『窓をあけよう』7号（昭和58年12月15日）に掲載されています。

私はもともと幼児教育にかかわる出版社（学研）に勤めていたせいもあって、子育てに关心があり、とくに家庭・社会における性差による育て分けに大いに異論がありました。女の子にも精神的・経済的自立能力を、男の子には衣食住など生活的自立を、と主張した著書『女の子の育て方』（文化出版局）が一定の読者を得て、世の中の関心を集め始めたころでした。

あれから40年近く。男の子女の子の育て方はどのように変わったのか、変わらなかつたのでしょうか。

大きな変化は、私が講演会に伺った二年後の1985年、日本は国際条約「女子差別撤廃条約」を衆参両院満場一致で可決、批准したことです。

三つの国内法・制度が改正されました。

一つは国籍法の父母両系主義への改正。それまでは原則的に日本国籍が取れるのは父系優先血統主義といって父親が日本人であることが条件でした。最大の変化は雇用機会均等法の成立でしょう。

戦後70年、なかなか平等にならなかった職

場における女性の地位が、まずは定年が男女同年齢になることから始まって、是正される方向が示されたのです。

もう一つが、中学・高校における家庭科（技術科）の男女共修です。私が最も力を入れて取り組んだテーマでした。制度が改正されて、中学は1993年、高校は1994年から実施されました。

近ごろ街角で、電車の中でパパがベビーカーを運ぶ外出風景は当たり前です。家庭科男女共修世代からイクメン・パパが増えたという声もあり、制度が変われば意識が変わり、行動変容にもつながります。

とは言え、日本社会の変化は他国と比べるとずいぶんゆっくりしています。政治の世界（国会議員、閣僚など）の女性比率は世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数によれば、153か国中144位。先進国中最下位と言われます。

企業などの管理職を見ると115位。

比較的好成績なのが「健康」「生存率」で40位。そういえば日本女性の平均寿命は世界一とは限りませんがベスト3の一角落を占めています。とは言え、40年、50年という長さで見ると、世の中の男女のあり方はやはり大きく変わっています。これから的人生百年社会、人手不足社会、大介護時代を思うと、その変化は今までより一層急になるでしょう。

多くの人々の幸せにつながるかたちで男女の生き方を希望をもって変えていきたいと思います。

柘植 あづみ さん

明治学院大学社会学部教授

専門は医療人類学、生命倫理学、ジェンダー論
港区在住・在勤



リーブラの利用者の一人として

私がリーブラを利用するようになったのは、港区にある明治学院大学に勤務しはじめてからなので、20年余になる。

あまり古いことは覚えていないが、この10年間では、リーブラ主催講座の講師を3回、担当し、私の研究テーマである出生前検査をめぐる話題についてお話をさせていただいた。（「著者が語る話題の本講座」2010年5月25日、「女性の人生と妊娠をめぐる葛藤～選択する、しない、できない」2011年4月26日、「知りたい、考えたい－出生前診断をめぐる話」2014年9月13日）

2016年3月6日には、移転したばかりのリーブラホールをお借りして、私が代表を務める「妊娠と出生前検査の経験に関する調査研究会」が公開シンポジウム「妊娠と出生前検査のいま－女性の経験から産婦人科医療における情報と選択を考える－」を開催した。当日、参加者は100人を越え盛況だった。

この他、リーブラで活動している英会話のサークルに所属し、定期的に参加もしている。

もちろん、リーブラ主催やリーブラを会場として団体が開く講演会にも、いろいろ参加し、学んできた。2011年の震災後に開催されたリーブラシンポジウム「災害と女性・人権」（2011年12月3日）の中でうかがった福島をめぐる報告は忘れない。

フィンランド大使館職員のミッコ・コイヴマーさんがフィンランドの男性の育児について講演

した、リーブラ主催講座「もっと子育てを楽しみたいパパたちへ」（2014年10月16日）に参加したこともあった。あの時、ファザーリングジャパンの方が質問をされていたのを記憶しているが、男性育児の動向や最新の情報を学ぶ機会になった。

また、ちょうど日程があったので、中華の新橋亭の総料理長の料理教室に参加したこともある。美味しかったし、まったく初めて会う人とグループになるのも面白かった。

私にとって、リーブラは、いつでも気軽に参加できる出会いや交流の場であり、学びや生活に潤いをもたらす場である。これからも有意義かつ快適なスペースでありつづけてほしい。

今年3月に開催予定だった「国際女性デー（Generation Zが拓く）リーブラミーティング」には、私のゼミの学生も参加してスピーチをおこなう予定だった。若い世代の学びを支える企画は今後もぜひすすめていただきたい。

実は、リーブラに行く度に図書室を横目で眺めて通り過ぎている。興味深い図書が所蔵されており、読書三昧の日々を送りたいという希望を持ち続けているが、実現していない。

リーブラが半世紀を祝う準備をするころには実現できそうであるが、そのときに私自身がリーブラに通えるように気力体力を蓄えておこう。蔵書も益々充実していかれることを期待している。

平賀 淑子 さん

元港区役所職員・婦人問題担当主査

港区女性の海外派遣事業の思い出



リーブラ設立40周年おめでとうございます。私は港区役所を退職してすでに16年経ち、現在は、港区内で町会・自治会活動をしております。区でかかわっていた仕事からはすっかり遠のいておりましたが、この度、リーブラの方からその当時のことを聞かれ、資料を見せていただきながら少しずつよみがえり、今ではとても懐かしく、楽しかったことを思い出しました。

今から33年前、現在のリーブラが婦人会館という名称だったころ、私は港区の区民部区民課の婦人問題担当主査（在職期間 1987.4.1～1992.3.31）を担当しておりました。

仕事の内容は、港区の女性の地位向上を目指した婦人問題の啓発で、情報誌「港区婦人ニュース窓をあけよう」の編集・発行、女性の海外派遣事業、婦人問題懇談会の設置、女性総合計画の策定、国や財団等の婦人問題研修への区民派遣などです。当時、この部署の担当は私一人で、時々課内の職員が補助に入ってくれました。

その中で、港区女性の海外派遣事業は、私にいろいろ経験ができ、とても勉強になった仕事でした。港区女性の海外派遣とは、1985年から1996年まで毎年、北米やヨーロッパを中心とした世界の国々へ、男女平等に関する先進的な取り組みを学ぶために、区民が派遣された海外研修のことです。参加者は、東京都の海外派遣事業に参加した区民を含め、合計70名の女性の方が参加されました。

私は、この事業に参加した方々から帰国後、視察研修内容をうかがうことで、諸外国の男女平等の現状を把握することができ、また、この事業に參加した、港区で女性の地位向上のために活動されている方々と、その後、交流ができたことも学びを一層深めてくれました。そして、海外派遣に参加された方々とは毎年、報告書を一冊の冊子にまとめ上

げ、婦人会館において手作りで報告会を開催することは、大変な作業でしたが、報告会まで成功裏に終了した後の充実感は今でも忘れられません。

この海外派遣事業に参加された方が中心になり、1986年、区内57団体が参加する「港区婦人団体連絡会」が結成されました。その後、この団体が、現在は男女平等推進団体の「ネットワークリーブラ」という名称で、引き続きリーブラで活動を続けていらっしゃること、また参加者の方々がそれぞれの団体でも活動を拡げながら、リーブラの中核を担い続けていらっしゃることを今回初めて知り、非常に感銘を受けました。

なお、海外派遣に参加された方々は、「港区女性海外派遣研修者の会」という団体を作られ、2017年ごろまで視察研修、情報交換をするなどして、女性の地位向上に努めていらっしゃいました。

また、私が企画にかかわった研修で、思い出されるのは、1990年と1991年に2回おこなった、岩手県の方々との船上交流会のことです。

参加者は、岩手県側400余名、港区側100名の総勢500名で、岩手県側が船に乗って、晴海ふ頭にいらしたところに、私たち港区側が乗船、合流し、船上でパネルディスカッションと交流懇談会をおこないました。参加者のみなさんは事前の準備を入念におこない、当日、活発な意見交換がされたことを記憶しております。

その他、国内の研修にも、ずいぶんみなさんと一緒にさせていただきました。

私にとっても大変楽しく、学びの多い5年間でした。区と区民が、共に学びながら、港区の男女平等の礎を作り上げていったあの時代、さまざまな助言、協力をしてくださった皆様、本当にありがとうございました。リーブラのますますのご発展を心より祈念しております。

リーブラで活動する団体からのメッセージ

リーブラで活動することの意義

社交ダンスを通じて、リーブラ行動計画の目標である「人権の尊重と生涯を通じた健康を支援する」ことを学習することができる。【青い鳥】

フェスタや利用者懇談会など、リーブラの催しに参加することで、他の団体との交流を深め、男女共同参画について意識を高めることができる。【歌のあつまり“風”】

他の団体の活動を知ることも出来、自分の世界も広がる。【英会話サロン】

機能が充実し安心して活動できる。男女平等が基本にあり、差別に対して敏感な施設である。
【NPO 法人みなと子ども食堂】

男女平等の意識を高めつつ、自己研鑽を積む活動ができる。【コール・みなと】

フェスタなどに参加し地域とのつながりがもてた。
【茶道同好会「明」】

一人一人が満足できて、笑顔になれるなどさまざまな内容ができる。【シャインウーマン シャインヒューマンプロジェクト】

男女平等の意識を高め、それぞれが生き甲斐を見つけ、向上していくきっかけとなる。【手芸グループあじさい】

女性センターの時からなので女性の活動を応援してもらえると思ったから。【女声合唱セントポーリア】

人権啓発、推進、女性問題を解決していくには同じ目的を持ったリーブラで活動することに意義がある。
【男女平等参画推進みなと】

生涯学習として前向きに生きる気持ち。【ダンスコア】

女性が活き活きと勉強、研究ができる。【実務書道クラブ】

週一回、ここに通い20年近い年月が経ちましたが、いつもここへ参りますと、気が引き締まり、さあ勉強しましょうという気持ちになります。学びの場所です。【ハロー英会話】

男女平等の精神を学ぶことができる。
【ハンディ&シニア企画桜の会】

国籍、男女、年齢、職業に関わらず、“忘年之友”が実施できること。【北京俱楽部】

最初は婦人会館、女性センターと名は変わってきたが、現在は男女共々使用できる。
【紅バラ会、りんず会、むらさきの会】

書道の学習を通してお互い社会に貢献できるように活動しております。【墨林港会】

各団体の方や利用者懇談会。フェスタのお祭りなどで、横の繋がりが広がり、情報交換ができる。学習のしかたや活動のやり方など参考になる事がある。【まきまきネックレスの会】

私たちの推進するうたごえ運動は「うたごえは生きる力」「うたごえは平和の力」などのスローガンをもつてますが、基本である人権の尊重など相通じるものがあります。【みなとピースサンデー実行委員会】

男女平等、差別などを解決のため、広く話し合え共有できる場である。【劣化ウラン廃絶ネットワーク】

リーブラで活動する団体からのメッセージ

次世代へのメッセージ

未来を意識して、自分達が時代を築いていくのだという意気込みで、なるべく毎日を過ごしていただきたい。なるべく多くの情報を収集して、その中から選択して行く生き方を意識することが大切です。一人一人の生き方が大事であると考えています。優れた選択は世の中を切り開いて行けると信じています。
【一般社団法人国際女性教育振興会港地区会】

妊娠期から子育て期までの母親、父親支援を地域活動の中から発展させていきましょう。子育て世代 20代～40代男女の健康を運動実施の側面からサポートしていきたいと考えています。
【ウェルネスひろば】

港区の男女平等参画に関する施策は、他区に比べて進んでいると思いますが、区民の意識がまだ追いついていない感じもあります。リーブラの催しや学習会など大いに参加し、学びながら発言もしていってほしいです。
【歌のあつまり“風”】

リーブラと共に SDGs をすすめていきたいと思います。
【茶楽】

立派な施設ですので、幅広くもっとたくさんの方に利用されるよう活用していただきたいと思います。
【自照会】

もはや「男女平等参画」というタイトルは古めかしくなっているのでは? (現実はそうではないことが多いと思いますが) それが当たり前で声高に言う必要のない社会になるよう望みます。
【日本語学習会さくら会】

施策の理想がよいので、どんどん、いろいろなクラブに参加してほしい。
【一花の会】

リーブラでは、どんな事をやっているのか関心を持って頂き、自分がやってみたいことがあれば、それに参加して、活性化していきたい。自分自身の為にも!
【富士の会】

女性活躍の歩みをもう少し知って意識が高まるといいなと思います。
【木曜ゼミ】

メールマガジン「クラブL」に登録しましょう!

月3回、募集中の講座・イベントをメールでお知らせ。

申し込み方法: <https://www.minatolibra.jp/clubapply/>
QRコードでも登録できます→



港区立男女平等参画センター リーブラ

〒105-0023 港区芝浦1-16-1 みなとパーク芝浦
Tel: 03-3456-4149 Fax: 03-3456-1254
HP: <https://www.minatolibra.jp/>



@libraminato

- ア ク セ ス
- ▶ JR「田町駅」東口(芝浦口) 徒歩5分
 - ▶ 地下鉄浅草線・三田線「三田駅」A6出口 徒歩6分
 - ▶ ちいばす◆芝ルート・芝浦港南ルート(品川駅港南口行)「みなとパーク芝浦」徒歩0分
◆芝浦港南ルート(田町駅東口行)「芝浦一丁目」徒歩4分
 - ▶ 都営バス(田92・99)「田町駅東口」徒歩6分

